

一般質問

個人質問



越川 哲 議員

● 国保成東病院について

Q 4月に国保成東病院の一部事務組合解散・地方独立行政法人移行協議会が設置されました。

メンバーは長隆氏を会長に、坂本院長を副会長に、成東病院の構成市町である山武市、東金市、九十九里町、芝山町のそれぞれの首長が委員の合計6名です。

この協議会は今まで2回開催されましたが、その進行状況はどうか。

A 市長 4月22日の成東病院全員協議会におきまして、成東病院と構成市町間で一部事務組合解散及び地方独立行政法人移行に関する協議会の設置が了承され、協定書

が締結されました。

第1回協議会は5月1日に開催されました。清算に伴う負担の割合を、平成20年度の関係市町住民の入院及び外来に係る延べ患者数の割合に基づいて、4市町間で分担するということが了承され、企業債、借入金、退職金及び特別負担金については、おおむね合意がなされました。また、会長から病院の土地の問題、修繕費用、地方独立行政法人設立時の運転資金などの新たな問題が提起されました。

第2回協議会は5月18日に開催されました。協議の結果、第1回協議会で了承された企業債から債務負担までは異論がないものの、その他の事項については、合意するのに難しい状況にありました。その後、6月4日に構成市町の会議があり、共通認識を確認し、現段階まで確定した部分について、第1次報告書が示されたということでした。

Q 本来ならば、成東病院は構成2市2町による地方独立行政法人の病院になるべきだと私は思います。

しかし、東金市、九十九里町、芝山町がどうしても脱退したいのですから、仕方ありません。一番懸念されることは、このまま成東病院を放置して赤字経営が続ぎ、病院として機能しなくなった場合です。

一番被害をこうむるのは、この地域の住民です。このようなことを考えると、成東病院が山武市単独の地方独立行政法人の病院になることは、山武市にとって苦渋な選択ではありますが、賢明な選択だと思っております。

山武市として、この地方独立行政法人に移行した新しい病院に、毎年どれくらいの新しい負担を払っていくのか。

A 市長 現在、成東病院へは構成2市2町から8億4千万円が繰り入れられています。そのうちの4億6千万円は山武市が負担しています。これから山武市が単独でやるという場合は、8億4千万円を繰り入れするのですが、差額の3億8千万円が全て負

担増になるということではありません。今まで東金市、九十九里町、芝山町に国のほうから入っていた病院運営に関するの交付税がすべて山武市に入ってきます。また、過去の起債の償還についても負担割合に応じて、東金市、九十九里町、芝山町から入ってきます。山武市として幾らということにつきましては、まだ正確に精査ができてはいませんが、6億円を少し超える額になると思います。

Q 現段階では、成東病院が地方独立行政法人の病院に移行した場合、どのような病院になるのか、はっきり見えていません。現在、この地域の医療は崩壊寸前でありま

す。その最後の砦が成東病院であります。また、この地域の医療は成東病院の再建なしには成り立ちません。山武市民は誰もが医療を受けられる権利があります。しかしながら、財源や医療資源は無限ではありません。税金を投入しておこなう公立病院の医療とは何かということをしつかり議論して、成東病院を再建していかねければなりません。天の時という言葉があり

ますが、今まさに成東病院が一大転機のときです。

山武市長で、なおかつ成東病院の管理者であります椎名市長には、より一層の奮起をお願いいたします。

A 市長 成東病院は、この地域で長年核的な病院としてやってきました。地域医療に果たしてきた役割というものを十分認識して、医療を継続させていくことが一番大切なことだと思っています。ただ非常に厳しい現状でございますので、経営面でそれなりに成り立つ方式を探っていくかなければなりません。地方独立行政法人にすれば、経営が成り立つというような単純なものではありませんが、

